研究者総覧：奥田 智樹（OKUDA, Tomoki）

氏名	奥田智樹（OKUDA, Tomoki）	
職名	准教授	
所属講座	日本言語文化専攻応用言語学講座	
学位（専攻分野）	修士（文学）・東京大学	
メールアドレス	m47023a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/staff/okuda.html	
研究分野	日仏対照言語学	
	統語論と意味論を融合する言語現象へのアプローチ	
	言語における主観性の問題	
現在の研究テーマ	・副詞に関する日仏対照研究 ・日本語における文法化と形式化	
所属学会	日本フランス語学会	
主要著書・論文	「avec＋名詞、de facon (maniere)＋形容詞、-ment の副詞の意味・用法の違いについて」『言語文化論集』31 巻 1 号（名古屋大学国際言語文化研究科、2009 年）35-48 頁.	
	「文末で用いられるオノマトペについて」『論集：異文化としての日本』（2009 年）93-102 頁.	
	“La polysemie de beshi et la grammaticalisation” 『言語文化論集』28 巻 2 号（名古屋大学国際言語文化研究科、2007 年）41-52 頁.	
	「推定判断表現の多義性」『言語文化論集』26 巻 2 号（名古屋大学国際言語文化研究科、2005 年）41-58 頁.	
	「Falloir の多義性」『言語文化論集』24 巻 2 号（名古屋大学国際言語文化研究科、2003 年）19-33 頁.	
自己紹介文	大昔は理系の人間だったのですが、フランス語の美しさに魅せられてフランス語学の世界に飛び込み、パリ留学中に日仏対照言語学を学ぶ過程で日本語学の面白さに目を開かされ、帰国後に本研究科の日本言語文化専攻に職を得たことに、大変運命的なものを感じています。そうした経歴の 「応用言語学特殊研究 a・b」授業風景	

	影響で、自然科学との対比で言語学について考えたり、フランス語学との対比で日本語学について考えたりすることが多く、自分なりの言語研究観を構築する上でも、他の方たちより多くの紆余曲折を経なければならなかったように思います。 　これまでは、多義語分析を中心とする意味論研究や歴史言語学的な研究を主に行ってきました。理論面では文法化理論やその関連領域としての認知言語学に関心を持っています。しかし言語学の分野で「私の専門は〇〇理論です」というような言い方をすることにはどうしても抵抗があって、特定の理論的枠組みを信奉することは意識的に避けてきました。 　今は家で４歳になる娘と一緒に過ごすことが何よりの楽しみで、娘の日々の成長を見ながら子供が言葉を覚えるメカニズムの神秘に目を見張っています。私たちの最も身近にありながらどこまでも深遠なこの言葉というものに対する興味は尽きず、これからも飽くなき探究心を発揮していきたいと思っています。
受験生へのメッセージ	研究者、教育者を目指して本研究科を受験される皆様にいくつかお願いしておきたいことがあります。まず、研究テーマの選定には慎重を期すること。できれば信頼できる指導者に相談するのがよいと思います。博士前期課程における研究テーマの選択に成功するか否かが、その後の研究者としての一生を左右するといっても決して過言ではありません。また、研究に際しては決して一般化を急がないこと。どの学問分野でもそうだと思いますが、言語研究においても厳密なものの積み重ねによってしか進歩はあり得ず、そのためたとえ局所的、部分的に見える言語現象であってもとことん考えてください。それから、研究の世界にもその時々の流行というものが存在し、それによって他の研究者から注目される度合いが異なるという現実があることは否定できないようですが、皆様にはたとえ地味であっても通時代的な評価に耐え得る実証的な仕事をしていただきたいと思っています。 　なお、博士後期課程の方は、制度上は博士論文提出までに最長で６年の猶予があることになっていますが、極力５年以内に初稿を書き上 応用言語学講座言語文化フォーラムにて

	げて、後の１年はその修正に費やすという心積もりで臨んでください。 　私は現代日本語の統語論、意味論、語用論、社会言語学および日本語と他言語の対照研究に関連する分野であれば幅広くカバーできます。こういった分野についての関心を共有できるあなたとの出会いを心待ちにしています。